

衣笠山きぬかさやまは等持院とうぢいんのうしろなる山なり。仁治年中に内大臣藤原家良公ないだいじんふちはらいへよしこう別荘を建給ふ、衣笠内大臣きぬかさないだいじんといふは是なり。

新六帖　はるかなる都のいぬる我宿は内山おほうちの麓なりけり　衣笠内府

絹掛山きぬかけといふは、むかし寛平法皇くわんぺいほうわう、御室おむろに於て水無月の炎天に深雪の眺を好み給ひ、此峰に白き絹をかけさせ、玄冬のけしきをうつし給ふといひ伝ふ。